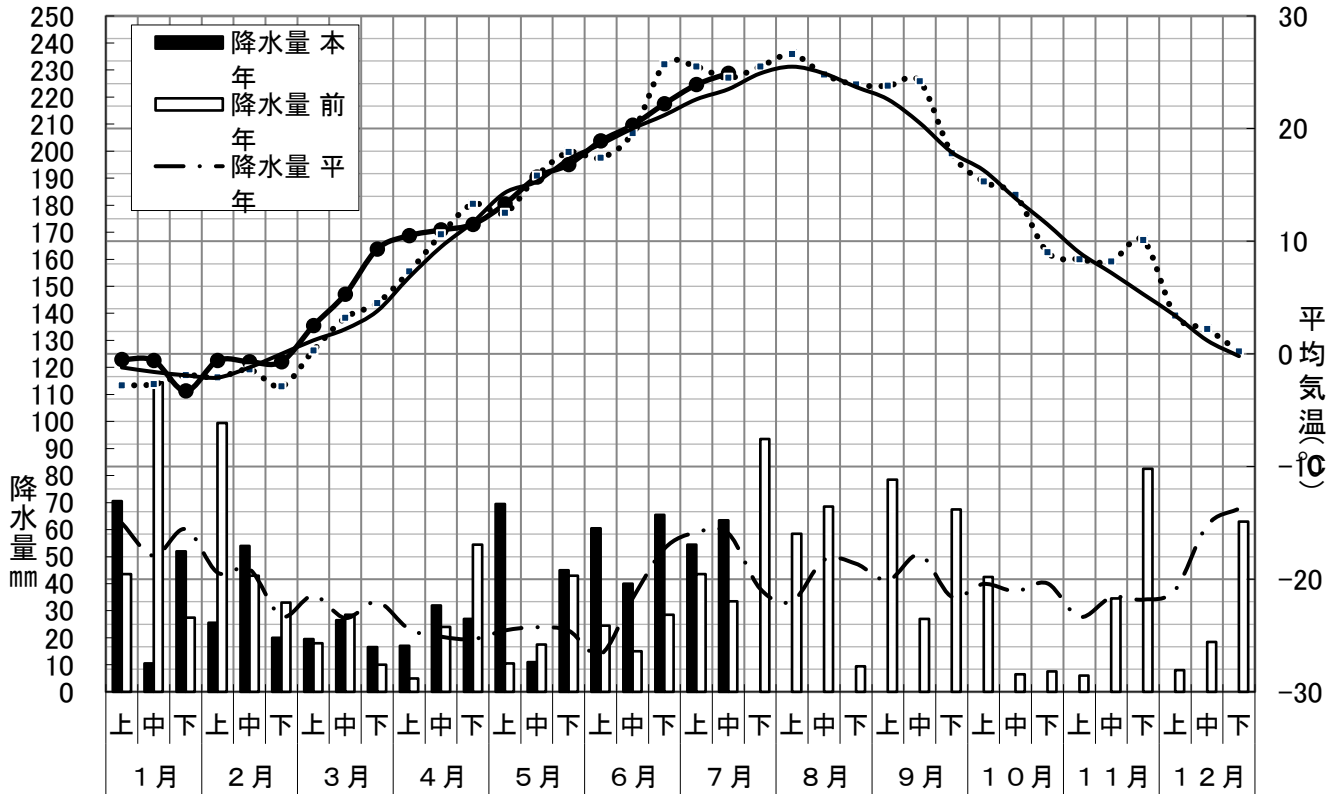


# 農作物生育概況

令和5年7月27日現在



## 【作物】

### <水 稲>

6月下旬から気温が高めに経過しているため、生育が前進している。7月20日現在の発育指数では-1.6日となっている。

飯山市常盤（標高315m）の定点の、7月11日の幼穂長は、あきたこまちで7mm、つきあかりで12mm、山恵錦で10mm程度であった。コシヒカリは7月21日に10mmだった。7月26日現在、あきたこまち、つきあかり、山恵錦で出穂が始まっている。

いもち病は一部常発地帯では葉いもちが見られているが、それほど多くはない。

オモダカのほかクログワイの残草がやや多い。

### <小 麦>

例年よりも早く、7月上旬にはおおむね収穫が終了した。

連作のため、生育障害（部分枯死）、雑草の多発などにより収穫量、品質とも低下している。

## 【果 樹】

### <りんご>

「シナノリップ」の収穫開始は8月上旬を見込んでいる。「ふじ」の一部で、水分ストレスによる黄変落葉が見られている。

梅雨期間中の降雨が多かったことで、黒星病、褐斑病の発生が昨年に比べ多い。今後はスモモヒメシンクイの被害が増える時期なので、注意が必要。

## <ぶどう>

果粒肥大が良好である。袋かけ作業は7月中旬がピークで、大規模生産者も7月中に概ね終了見込み。

7月半ばの高温により、日焼けが発生したが、収量への影響はない。「シャインマスカット」、「クイーンルージュ®」は果粒軟化期となっており、「クイーンルージュ®」では雨よけ栽培など生育の早いところで着色が始まっている。

全域で黒とう病の発生が目立つほか、べと病も散見される。コガネムシの食害も山手の園地では多い傾向。

## <核果類>

ももは「あかつき」の収穫が始まった。極早生品種では、果肉先熟も見られたが、早生品種以降は成熟期が好天に恵まれ、着色も順調。核障害による変形果が多い。

プラム「シナノパール」の果肉褐変症は7月20日頃から確認されている。スモモヒメシクイによる果実被害も見られており、基本的な防除の徹底を呼びかけている。

## 【野菜】

### <アスパラガス>

露地・半促成ともに、夏芽収穫中。曲がりや扁平茎が目立つ。病害ではハウスを中心に褐斑病が7月下旬から増えている。露地では茎枯病の発生がやや多い。

### <白ネギ>

定植後2～3か月、生育はほぼ順調。早出しを狙った4月植を中心に7月中旬から葉枯病が多くみられる。

### <きゅうり>

露地は、収穫最盛期となっている。降雨が多かったため、べと病、炭そ病などの病害目立つ。

## 【花き】

### <トルコギキョウ>

季咲き作型収穫後期。残っているものはお盆出荷へ。出荷が終了しているほ場は順次、土壌消毒を実施している。

### <ソリダゴ>

露地作型（4月台刈り）の1番花収穫期。草丈等品質は良好。露地の2度切り作型では電照を行っている。

### <コギク・アスター>

お盆用コギク・アスターの生育は順調。一部のコギクでは7月13日から東京盆向けに出荷が始まっている。単価は平年並み。

梅雨明け後、アザミウマ類、ハダニ類等の害虫や病害の発生が懸念されるため、定期的な殺虫殺菌剤散布を呼びかけている。

7月14日北信地域コギク立毛品評会：中野市より2点出品